

あなたもカウンセラー

～児童生徒相互の好ましい人間関係づくりをめざして～

教育センター教育相談部

118号 互いに理解し合うことをめざした指導援助

119号 互いの信頼関係を深めることをめざした指導援助

120号 互いによさを認め合い、生かすことをめざした指導援助

本号（最終回）は、これまでの2回（118号・119号）の実践を受け、「互いによさを認め合い、生かすことをめざした指導援助」について紹介します。

◎ でも、何かが……！

2月はじめの放課後、担任はたまたま教室でタケシと一緒にになりました。

担任：タケシ君、1学期の頃からするとだいぶ明るくなったんじゃない。

タケシ：ええ、中学に入学したばかりの頃は、不安もあったんですが……

担任：そう……。

タケシ：先生が時々学級活動の時間にやってくれるゲーム（実習）なんかも楽しいし、学級の雰囲気もいいですよ。



担任：そうかあ。中学校生活が充実してるってとこかな。

タケシ：ええ、そうなんですけど……。

でも、何かが足りないなあって、自分らしさって何かなあって……
……、最近考える時もあるんです。
担任：でも、何かがねえ……。

職員室に戻った担任は、タケシとの会話に出てきた「でも、何かが……」ということばが気になりました。

確かに、ゲーム（実習）などを取り入れて、学級には活気が出てきたのだけれど、「でも、何かが足りないのでは……。」と担任としても感じていました。

自分の気持ちや考えが、のびのび表現できて、周りもそれを温かく受け入れられるようにはなってきたんだが、一人一人のよさを認め合い、生かすことができるようになってくれたらなあ……。

そんな思いで、これまでも机の上に置いて、時々開いて参考にしているゲーム（実習）の本を手に取りました。